

よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。

月 刊

同友

1 2023
月号

vol.678

MONTHLY COMMUNICATION MAGAZINE DOYU

特集

質の高いグループ討論を全国へ！
例会づくりプロジェクトが
取り組んだ2年間

21世紀型
自立型
企業づくり

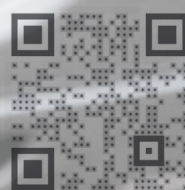
経営理念は、あん・しん・かん
～社員が働きやすい環境づくり～

ふる はた み か
降旗 美香 氏 (有限会社Miyamaコーポレーション)

福岡県中小企業家同友会



広報情報部
Facebook



【デザインQR】

質の高いグループ討論を全国へ！ 例会づくりプロジェクトが 取り組んだ2年間

2021年度に福岡地区会で発足した4プロジェクト。今回はその一つである
例会づくりプロジェクトに、これまでの取り組みを振り返っていただきました。

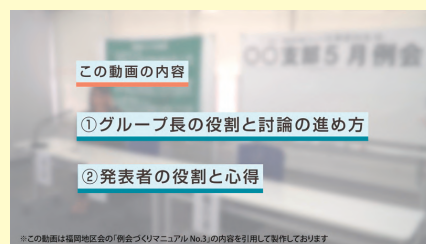
参加者

福岡地区幹事長 金光孝男氏（南支部）
例会づくりプロジェクトリーダー 阿部弘美氏（南支部）
例会づくりプロジェクト幹事 豊島圭氏（博多支部）

文：南 史聡（未来文書株式会社／西支部）



福岡県中小企業家同友会 YouTube チャンネル登録をお願いします。



同友会 3つの目的

よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して、企業の自主的な近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

よい経営者になろう

同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

今月の表紙



株式会社 Miyama コーポレーション
代表取締役社長
降旗 美香氏（福友愛支部）

詳しくは本誌7ページへ

私が降旗さんを
紹介します！



有限会社 一柳
専務取締役

納富 輝子（福友愛支部）

私と降旗さんが出会ったのは、トラック協会の女性部勉強会で私が講師としてお招きをいただき、経営体験の発表をしたのがきっかけでした。
同友会で学んだ「経営指針書の素晴らしさ」を伝えたくて、一生懸命お話をしたことを覚えています。大半は「社長の奥様」という方が多かったようで、少し他人事？で聞かれていたように思いますが、その中でもひと際目を輝かせ、食い入るように聞き入ってくださった方が降旗さん

でした。
食事中、同友会のお話をしましたら是非、と言ってすぐ入会をしてくださいました。入会と同時に末政塾で経営指針書を学ばれ、さらには末政塾の代表として発表され、新しいビジネスモデルの抱負について熱くプレゼンされました。また、支部の役員も次々に引き受けられ、皆の牽引役です。
今は福友愛支部の副支部長仲間づくり（会員増強）のプロジェクトリーダーをされて同友会の素晴らしさを懸命に伝えてくださっています。
いつも前向きに率先垂範、そしてエネルギー。さらには自社の業績も伸ばされ、みんなが憧れる女性経営者の鏡としてみんなを明るく導いてくださっています。

撮影後記



Miyamaコーポレーションの降旗さんを撮影でお訪ねいたしました。阿川佐和子さん似の素敵な女性です。小さな体に、はち切れんばかりのエネルギーがある方です。楽しく撮影ができ、素敵な写真が撮れました。お忙しい中時間をいただき感謝しております。ありがとうございました。

撮影・文／株式会社ココスイメージ 富谷 正弘（玄海支部）

まず、例会づくりプロジェクト
について教えてください

例会づくりプロジェクトというのは福岡地区会の中にある組織なのですが、このようなプロジェクトという組織ができたのは、二〇二一年度からのことです。

これまで地区会ではグループ長研修やあすなろ塾などの実施に取り組んできましたが、これらは地区会全体で動いていたものです。それを、プロジェクトごとに役割を振ったということになります。

構想自体は前地区会長の古川淳一氏（博多支部）が温められてきたものですが、それを現地区会長の北原正氏（南支部）が二〇二一年度から引き継いで組織化しました。

初めての取り組みでもあるので、今後どうなるかというのは来年度以降の話になりますが、今期はプロジェクトごとにやることはしっかりしているの、それに向かってやってきました。

実は例会づくりプロジェクトの前身というのが二〇一九年にあったグループ長研修の担当メンバーで、もともと地区会として例会の質を上げる

取り組みは行っていました。

同友会の一歩の活動はやはり例会で、例会の質を上げるにはグループ討論の質を上げなければなりません。そこで、グループ長の役割をしっかりと認識してもらおうというのがグループ長研修でした。

例会づくりプロジェクトもその流れを汲んで、例会の活性化とともに、グループ討論を例会の肝の部分ととらえて、グループ長の質を上げることが目的としています。



金光孝男氏

例会づくりプロジェクトの
活動について教えてください

まず一年目に取り組んだのは「昼例会」です。夜に参加できない業種の方や、子育て世代の方が例会に参加できるようにということで、昨年度二回実施しました。

一回目はハイブリッド開催、二回目はZoomのみで開催しました。例会自体はとても良かったものの、残念ながら来てほしいと思っていた層の参加には結びつきませんでした。ただ、現在行われている例会に対して、もう少し早い時間にしてみてはどうかなどといった意見が上がったのは良かったと思います。

たとえば、例会の時間を早めることで、普段参加できない方や社員が参加できる可能性も出てきますし、懇親会に参加しても電車で帰ることができそうです。そういう意味では、今ある例会を考え直すきっかけになった取り組みだったと思います。

もう一つが動画の制作です。これはコロナ禍でグループ長研修ができなくなったことがきっかけではありますが、例会づくりプロジェクトとしてグループ討論の質を上げるための動画

を制作しました。

動画は例会づくりマニュアルを基に二種類作成しています。今YouTubeに上がっているのがグループ長のための動画で、十分程度あります。もう一つ、今作成しているのはグループ討論に参加される方のための動画で、これは三分程度に収める予定です。



動画の役割について教えてください

実はグループ討論の方法や目的、グループ討論の発表内容など、支部ごとに均質化されていないという現状があります。つまり、グループ討論の質に差があるので、ある支部ではしっかりした討論ができるけれども、ある支部では討論が深まりにくいという状態になっているということです。そうであれば、それは会員



にとっても、ゲストにとっても残念な話です。ですので、同友会に入ったら、どこの支部でも例会に一定のクオリティが担保されていて、単に例会が開催される地域が違うだけというのがあるべき姿だろうと思います。

例会の良さは、報告者や報告内容も必要なのですが、グループ長がしっかりみんなの意見を引き出して、深掘りをしてくれることで自社に持ち帰るものが増えます。例会に参加した方の満足というのは、結局はそこに尽きるところです。ですので、グループ討論に一つの統一基準があって、そこに自主・民主・連帯で支部ごとの独自のカラーを出していくというのが理想ですね。

今回の前にグループ長が集まって打ち合わせをされる支部も多いと思いますが、事前にグループ長の役割について共通認識があれば、良いグループ討論につながると思います。今回作成した動画はグループ長に向けた十分と、参加者に向けた三分の二種類がありますが、例会前の打ち合わせで十分動画、例会の報告後に三分の動画を流していただくのが一番良いと思います。



阿部弘美氏

動画を作成したあと、目指した
ところを教えてください

まずは福岡同友会の中で大いに活用してほしいと思います。作成したのは福岡地区会ですけれど、北九州地区、筑豊地区、県南地区でも使っていたきたいですし、また、支部例会だけでなく、フォローアップ研修などでも流してほしいですね。グループ討論がこういうものかを知っていただくことで、新しい会員さんが例会に対するイメージをしっかりと持てると思います。

実は、全国の行事に参加して感じることもありますが、全国行事でも基調講演こそ評価が高いのですが、分



経営理念は、 あん・しん・かん 社員が働きやすい環境づくり

科会でのグループ討論には大きな質の差がありますね。先にお話したグループ討論の差は、福岡同友会だけではないと感じています。

ですので、来年度開催される女全交の分科会で、この動画を流してほしいと考えています。そして、福岡でこういうものを作っているということ全国のみなさんに知っていただいて、これを全国の同友会で活用していただくようにしたいですね。

目標は大きくいきたいので、最終的には中同協でこの動画が採用されて、全国で活用されることを目指したいです。



豊島圭氏

今後の地区会の方針はどうなるでしょうか

地区会の方針は地区会長が中心となつて決めることです。もしかしたら来年度は大きく変わるかもしれません。ただ、地区会の役割というのは支部のサポートですから、そういう意味では例会づくりの立ち位置は変わらないと思います。

たとえば例会の企画にしても、現状では支部ごとにフォーマットが違っています。それは支部ごとのカラーと思いますが、地区会でそのあたりの情報交換をもっとたくさんすることで、各支部の企画がもっと良くなりますし、例会づくりに困っている支部の助けにもなります。それが地区会の役割ですね。

例会づくりというのは、例会の質を引き上げる、グループ討論の質を引き上げることです。グループ長研修にしろ、今回作成した動画にしろ、グループ討論の質、例会の質を段階的に引き上げるという目的は変わりませんので、やることは変わってもその方針は続いていくでしょうね。

昔は知り合いの社長から呼ばれて参加するという会員さんが多かったのに対して、今の会員さん、特に三十代、四十代の方は、本当に学びに来ているん



だなど感じます。そして、学べると思ってた例会が学べないというのは、おそらく退会の一つの理由になっていると思います。

まず質の高い例会に参加して、そのうえで、ブロック会で仲良くなって、例会では言えない自社の経営課題を相談して、自社を良くする、自分の質を高めるといいうわゆる仲間づくりにつながっていくということが今後の同友会にもっと求められるでしょうし、地区会として取り組んでいくことだろうと思います。

最後に会員みなさんに一言お願いします。

まず、このような動画が存在しているということを知ってほしいですね。グループ長をやるときにこういう動画があるということを知ってもらうために、まず見てもらいたいと思います。そして、これまで同友会の中でマニュアルというのはたくさん作られてきたと思うのですが、活用されなかったら意味がありませんので、ぜひ支部の中で活用してほしいですね。

たとえば役員研修会で使っていたいたり、三分動画は例会の時に毎回流していたら、ゲストの方などが安心して参加できる環境を作ったりできます。コロナ禍でも変わらない例会ができるようにという思いで作っていますので、Zoomでもリアルでも使えるようなものですから、すべての支部で活用していただきたいと思います。

そして、目指すは全国! 中同協でこの動画が採用されるようにしたいですね!

取材協力ありがとうございます。

有限会社 Miyama コーポレーション 代表取締役社長 降籬 美香 氏【福友愛支部】

会社の立て直しに取り組む降籬さんは、
社員の声を聴くことに徹したのでした。

一年だけ猶予を

今回の取材先は(有)Miyama コーポレーションの降籬美香さんです。同社は現在100台の車両を有し、医療品輸送、一般貨物事業に加えて倉庫業や物流システム企画など物流のトータルコーディネートを目指しています。

従業員が95名で女性ドライバーが24名と、運送業では突出して高い比率になっています。

平成元年、美香さんの父親の片山善徳さんが「これからは物流の時代だ!」とそれまでのライターの仕事から一変し、軽トラック1台で創業しました。片山さんは強力な行動力を発揮し、平成6年に(株)FBSコーポレーション(現在・(株)エフティーライン)を設立させます。弟の和徳さんが後継者として入社し、大型

取材/広報部
文章/菅原 弘(東支部)
写真/富谷正弘(玄海支部)
デザインQR



トラック、トレーラーに特化していきました。一方、軽貨物運送事業として平成16年3月(有)みやまコーポレーションを設立させました。平成18年に一般貨物輸送事業(1ト、2トトラック)を始めたのを機に、ご主人の賢一さんが会社に入社し、常務取締役就任を希望されています。降籬さんはもとも継がないと考えていましたが、平成23年の東日本大震災で運送業の重要性を認識し、経理兼総務として入社してサポートします。

しかし平成27年から3年連続で赤字となり、弟さんの会社で吸収合併の話が進んでいきました。「長距離主体の会社では、うちの社員の居場所がなくなる」と考えた降籬さんは「一年だけ猶予をください」と願い出て会社の再起を目指しました。



いろいろな場面で、高齢者のお客様にお会いします。一人暮らしの高齢者の方は話し相手もなく、時折ジューズなどを用意してドライバーを待っている方もいるそうです。そんな中で「運送業なら『引越越し』を請け負ってもらえないか」という相談を受けてきました。引越越しのノウハウを持っていませんでしたが、

会社を永續するためには、社員が安心して働ける場ではありません

ライフサポート事業部とは

降旗さんは取り組む決断をしました。高齢者と親族が離れて暮らしていたり、高齢者の1人暮らしが増えていく中で安全なはずの自宅の居間で高齢者の方が転倒し怪我をされ入院や施設に行くことになるケースが増えてきています。そこで、引越越しはもちろんのこと、高齢者のための身の回りの片付けなどの業務を行う『ライフサポート事業部』を立ち上げたのです。

「今後この分野のニーズは増えることが見込まれます。また物流業は時間の標準化が意外と難しいのです。朝と夕方が忙しく、意外に昼過ぎは仕事が少ないのです。高齢者も午前中に病院に行つてその時間帯は家にいることが多い。そこでシフトを組んでこの仕事に取り組むことでわが社にもメリットがあります。片付けのプロ、ヘルパーの資格者も動員して取り組みます。経営理念の『あん・しん・かん』を具現化する事業です。」

社員が働きやすい環境づくり

『あん・しん・かん』のために、社員に寄り添う姿勢は社長になってからも変わりません。会長が社長時代のNo.2、No.



立て直しの取り組み

何としても黒字転換を図らなければなりません。そのためには社員のモチベーションを上げることが大事と考えました。降旗さんが取り組んだことは2つ、徹底的に現場の声を聴くことと経営を学ぶことでした。

運送業についての知識は皆無と言っていた降旗さんは、まず社員の声を聴いて回りました。

「耳の痛いこともありましたが……」と降旗さんは続けます。「多かったのは、休日のあり方、家族との時間を増やしたいという意見と収入を上げたいということでした」。そこで有給休暇の有効活用、特に前もってわかっているイベント

（学校行事）への参加促進、子どもの急な発熱への対応、男性社員の出産への立ち合いなどを積極的に対応するよう推奨していきました。もともと年齢層が広いこともあり、あたたか子ども世代・孫世代との付き合いのようになりみんながカバーする社風が生まれていきました。こうした取り組みの結果、同業他社からの転職、社員からの紹介、親子での在籍、社員の定着率の向上などの成果が表れてきました。

収入を上げたいという要望には、軽トラックから1ト、2ト車、3ト、4ト車さらに10ト車とスキルアップして乗ってもらうようにしました。女性ドライバーは大型車では荷物の積荷や降ろし作業が大変なので切り離しだけで済むトレーラーも導入していきました。スキルアップを希望する社員には会社が費用負担しています。人事評価制度も導入し、習得したスキルに応じて評価と等級付けし報酬に反映させています。

同友会で経営を学ぶ

降旗さんは経営を学ぶため、大阪で開催された業界の会合に参加しました。そこで川端運輸(株)の川端章代さんと出会います。川端さんは奈良同友会代表理事でもあります。同友会という経営を学ぶ会が福岡にもあるはずだから訪ねてみな

さい」とアドバイスをもらいました。福岡に戻るやすぐに問い合わせしてみると「同友会を知る会」を開催するというのでさっそく参加しました。また、トラック協会の女性部勉強会で納富輝子さん（有）と知り合い、女性経営者の話に感銘を受けました。



「同友会がなかったら今の私はありません。本当に感謝です」。現在、副支部長として仲間づくりの先頭に立っています。

あん・しん・かん

降旗さんが同友会で策定した経営理念は次の通りです。

「私たちは全ての人々にあん・しん・かんを運び続けます」

（あん）安全が安心になり
（しん）心をこめて信頼をつくり
（かん）感謝・感動を運びます

私たちは、（物）ではなく（想い・言・事）を運んでいるという誇りをもって仕事に取り組み、人々に安心感を提供し続けます。

社長に就任

社員のやる気も向上し業績も回復軌道に乗り、会社を存続することになりました。平成30年11月、降旗さんは覚悟を決め社長に就任しました。就任と同時に2つのことを行いました。

一つは社名を、有限会社みやまコーポレーションからMiyamaコーポレーションへとアルファベット表記に変えました。これは福岡がアジアの玄関口であるという地の利を生かし物流業として海外進出を目指そうという思いが込められています。

もう一つはライフサポート事業の立ち上げです。



変革し続ける会社

3が退社してしまいました。降旗さんはドライバー経験者を管理職に抜擢していきました。「管理職には、コミュニケーションが第一。常にドライバーの話を聴くことを心がけて下さいと伝えていきます。特に『困っていること』を言えるような雰囲気づくりをすること。また、相談されたことに對しての返事は迅速に対応してもらうようにしています。」

コロナ禍で苦戦を強いられましたが、ドローン事業と中国国内向け航空宅配サービスを立ち上げました。新しい風が吹いています。

取材の最後に降旗さんが考える自立型企業についてお伺いしました。「会社を永續するためには、社員が安心して働ける場ではありません。そのためにお客様や地域から感謝され、必要とされる会社でなければなりません。社員、お客様、地域のみなさまの声を聴き、情報を集めさらにアップデートして、自分たちで何ができるかを考えて変革していく会社が自立型企業だと思います。うちの場合はすべて『あん・しん・かん』に基づいているかどうかです。社員が働きやすい環境をつくるのが私の仕事です」と笑顔で締め切ってくださいました。取材協力ありがとうございます。

有限会社
Miyamaコーポレーション

創業 2004年 3月
住所 糟屋郡宇美町貴船4-1224-1
電話 092-957-0058
従業員数 95名(うちパート10名)
事業概要 一般貨物運送業、食品の宅配業務、医薬品の宅配業務、倉庫業。

<https://miyama-smile.jp>

DXにどう取り組むべきかを考える

取材：船木 治(中央支部)

〈2022福友愛和DX推進プロジェクト〉

リーダー **前田 憲太郎 氏**
(株)ストラテジア(福友和支部)

サブリーダー 猶寄 博子 氏
社会保険労務士なおよき博子事務所(福友和支部)

サブリーダー 高橋 直喜 氏
ミーティングプラスコンサルティング(同)(福友和支部)

担当副支部長 王 愛 氏
(有)五十番食品(福友和支部)

経済産業省は、2025年の崖が来るということで、企業の危機対策を促しています。

2025年の崖とは、

老朽化したシステムが増え、IT人材(定年など)による古いシステムの人材、先端ITの人材の不足も進み、システムトラブルなどの増加など、老朽化したシステムへの費用がかさみ、DX推進(データ活用による迅速な経営環境の変化への対応)が実現できないと、2025年以降、最大12兆円/年の経済損失が生じる可能性があるということ。

です。

DXという言葉は、営業的にも乱用されていて、自社で、DXをどう受け止め、取り組むべきか悩まれている方が多いと思います。

同友会の中で、DXに取り組まれている福友愛和DX推進プロジェクトのリーダー前田憲太郎氏に、プロジェクトの活動やDX推進について重要だと思われることを伺いました。私自身は、ユーザーとしてDXに取り組む企業であり、ITの専門家ではありませんので、大変な取材だとは思いましたが、DXについての考えを整理する良い機会だと

思い担当させていただきました。取材につきましては、対話形式の原稿づくりが難しかったため、私が伺ったことを整理した形にさせていただきました。

この活動は、前期から始まり、2期目になります。DXというとても大きなテーマと誰を対象にどのようなレベルで、勉強会を設定するかとても悩まれ、試行錯誤されたようです。

DXという言葉は、エリック・ストルターマン教授が提唱しましたが、その時は、デジタル技術による変化を指す言葉だったようですが、企業や行政の取り組みを指す言葉に変わってきたようです。

経済産業省のDX推進ガイドラインでは、「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。」と定義されています。

この定義を見て、違和感を覚える方も多いと思います。広告などで使われるDXは、ペーパーレス化や業務の自動化など、既存の仕事の効率化が多いからです。

既存の定型業務の工数の削減や業務の効率化は、デジタルシフトと呼ばれていて、データが活用できる基盤づくりになります。DXは、顧客の求める価値を創造するイノベーションが重要な要素です(ビジネスモデルの変革も伴います)。デジタルシフトそのものは、DXそのものではありませんが、企業で、デジタル化によりデータが連携され、データが活用できる状態になることは、DX推進の重要なベースになる改革です。

マーケティングにおけるターゲットの絞り込みについて、ペルソナシートを用いて紹介。報告後、参加者が「社内DXのペルソナ」社外DXのペルソナ」を作り発表。

「守りのDX」
●報告者：江頭電二氏
(株式会社キャッチアップ)

「守りのDX」では、社内ポータルに、ビジョンや行動指針、目標数値、マニュアル、就業規則など社内共有すべき重要な情報を集めて一元管理し、出退勤と合わせることで、意識の共有をするお話でとても興味深いものでした。

今後の経営戦略が明確になったり、企業理念やブランディングが明確になったりするという効果も期待できそうです。

「人事政策」
●報告者：猶寄 博子氏
(社会保険労務士なおよき博子事務所)

DXを推進するには、組織変革が必要で、社内の協力体制づくりが重要で、評価体制も含め、経営者がしっかり理解し、DX推進の環境づくりをしていく必要があります。

第8講 「情報保護」

1月以降の開催予定
● 1月17日(火)
● 2月20日(月)
● 3月20日(月)
● 4月17日(月)
※5月以降も継続開催予定

プロジェクトに参加したのは、4回でしたが、一つ一つの会が充実した内容で、学びの多い勉強会でした。自分で考える時間も、自社の状況を見つめなおす良い機会になりました。

ZoomでのDX推進プロジェクト勉強会の様子



第1講 「2025年の崖」
第2講 「DXを構成する技術」
DXの主要なデジタル技術利用されるデバイスなどについて、実例などの報告
第3講 「ペルソナを設定する」
●報告者：海野 康弘氏
(株式会社バウンディングパルス)

第6講 「DX認定」
DX認定に取り組んだ体験談のお話でしたが、取得の過程で自社の

このプロジェクトに参加して、あらためてDXについて重要なポイントについて考えてみました。

DXにおける変革は、デジタル技術を活用して「顧客に提供する価値」や「提供する仕組み」を変えることですが、多くの中小企業のDXの取り組みはデジタルシフトにとどまっています。

デジタルシフトは重要ですが、激変する経営環境の中で、自社がどのように変わっていくべきかのビジョンをしっかりと作ることが必要で、経営のトップがそのことを理解し、実現のために組織行動を変えていく実行力が必要になります。

このプロジェクトは、あと数回開催されます。自分は全然分らないという方

前田氏が伝えたいこと

- 1 DXはどの経営者にも関係あること。
- 2 変革しないと
よそから足元をすくわれること。
- 3 経営者一人ではできないこと。
- 4 他社の事例は全く役に立たないこと。

参加について

- ZoomIDはe.doyuにて、ひと月前に出します。日程は行事予定"DX推進プロジェクト"を確認してください。
(※e.doyuでしか出していない)
- 支部問わず誰でも参加OKです。
社員さんも参加OKです。
- その他問い合わせはストラテジア前田まで
TEL:092-739-0177

も、参加してみると、雰囲気も良く、意外と取り組みそうなことも発見できて良いと思います。また来期も開催したいとお話しなので、DX推進にご興味のある方はぜひご参加ください。



2022年度 第7回 理事会だより

開催日時	2022年11月22日(火) 14時30分～17時33分
会場	福岡県中小企業振興センター401
出席数	39名(出席率86.7%)
議長	森 茂博(副代表理事)

○金融調査の実施について

福岡同友会では、全会員を対象とした金融調査を実施することとなりました。福岡同友会は2016年に福岡県内の8信用金庫と業務提携をし、懇談会や勉強会を開催しています。10月に開催した信用金庫との懇談会では、会員の信用金庫との取引状況や信用金庫以外も含めた金融取引実態についての調査を行い、その結果をもとに今後の連携強化を進めていく協議をしました。

○会員企業の動き

■経営革新計画承認企業 2022年10月(県172件／うち同友会会員・企業1件)

- ギャラリー宏介(株) 太田 信介氏(博多支部)
テーマ／宅配便を活用した太田宏介作品による定額制絵画レンタルサービス事業の全国展開
※累計で福岡県全体では9,235件、会員企業は延べ547件です。

■表彰

- 第10回北九州市健康づくり活動表彰／(株)小林組 小林 亮介氏(北九州支部)
- 第24回福岡県デザインアワード 受賞／金賞受賞 宮田織物(株) 吉開 ひとみ氏(福友和支部)

★理事会議事録の詳細はe.doyuの「文書管理」にある「理事会議事録」にてご覧ください。

入場
無料

参加企業
120
ブース

BtoCの
飲食物販
ブースもあり!

チャレンジ フェスタ

Challenge
Festa
2023

BtoBもBtoCもビジネスパートナーがきっと見つかる!
福岡元気企業のビジネス大イベント開催!

令和5年
2/24 [FRI]
11:00-17:00

場所
**JR博多シティアミュプラザ9F
JR九州ホール**
福岡市博多区博多駅中央街1-1
TEL 092-292-9258

来場者に
もれなく当たる!
大抽選会

お問い合わせ

(一社)福岡県中小企業家同友会 会員交流特別委員会
TEL092-686-1234 FAX092-686-1230 (担当:大庭)

【福岡地区】2023年新春講演会

王道経営8×8×8の法則

1/16 月 18:30~21:00

- **福岡国際会議場** 福岡市博多区石城町2-1 ☎092-262-4111
+WEB会議システム「Zoom」(ZoomミーティングID等は別途連絡)
- **大久保 秀夫 氏** 株式会社フォーバル 代表取締役会長

朋友・孫正義氏と共に戦い、通信業界に大きな風穴を開けた大久保会長。経営者として第一線で長年活躍する中で発揮されてきた経営哲学について、本講演で余すところなくお話しいただきます。

『会社は公器』『社員と家族が第一で株主第一であってはならない』『新規事業は収益性より事業の社会性を重視して決断せよ』等、その経営の真髄は“新しい資本主義”を何歩も先取りするものです。

本講演は『経営者は社員に対して教育者であ

れ』と言う大久保会長による、人としての正しい経営とは何かを私たち経営者へ問うものでもあります。この機会にぜひ改めて考え、経営に活かしましょう！



大久保 秀夫 氏

【大牟田支部】新春祝賀会

**1/18 水 講演会18:00~
祝賀会19:30~**

- **モーリアクラシック大牟田** 大牟田市上宮町1-8-8 ☎0944-51-5151
- **川中 英章 氏** 株式会社EVENTOS 代表取締役 広島同友会

飲食事業からスタートした(株)EVENTOSの川中氏は同友会入会後、継続的な共同求人とビジョン策定で着実に会社は成長し、地域牽引企業に選ばれるまでになりました。しかし、コロナ禍で飲食事業やブライダル事業の売り上げが激減して行きます。そのような危機的状況の中でどのようなことに取り組んだのか、また今後の新たな事業後の経営に活かせるヒントを頂きたいと思います。



川中 英章 氏

【りょうちく支部】新春講演会

地域の中小企業の元気が、地域を元気に明るくする!

1/18 水 19:00~21:00

- **るり色ふるさと館ホール** うきは市吉井町983-1 ☎0943-75-3343
- **藻谷 浩介 氏** 株式会社日本総合研究所 主席研究員

少子高齢化に加え、コロナ禍・円安・ロシアのウクライナ侵攻等の、様々な問題が起こり、今や日本国内だけでなく世界の出来事が我々に直面してきます。

そんな中でも、若者が持続して住める地域を残さなくてはなりません。その為には、地域の中小企業の元気が必要です。我々地域の中小企業が学び、協力と切磋琢磨をすることで、若者に希望を与え持続可能な地域になります。その元になる数字を知り、みんなで考える機会にしましょう。



藻谷 浩介 氏

18 水 18:30~20:30

西支部1月例会

組織力向上のためのコーチング
～経営者に必要なコミュニケーションスキル～

- **アクア博多会議室** 福岡市博多区中洲5-3-8 ☎092-263-4770
- **平田 美佐子 氏** OfficeM☆Coaching/(一社)ジャパンコーチラニング 代表/共同代表理事

【筑豊地区】新年祝賀会 (のおがた支部・飯塚支部・田川支部例会振替)

「大廃業時代の町工場生き残り戦略」
～浜野製作所奮闘記～

1/20 金 18:00~

- **パドドゥール・コトブキ** 飯塚市片島1丁目7-62 ☎0948-22-5138
- **浜野 慶一 氏** 株式会社浜野製作所 代表取締役 CEO 東京同友会

今回は、新年の公演にふさわしく、前向きで今年1年の元気をいただける方に講演をしていただきたく企画しました。コロナ禍で陥った閉塞的な雰囲気を開する講演内容になればと考えています。講師には、いままで幾多の困難に立ち向かい、企業経営をしてこられた株式会社浜野製作所の浜野さんにご講演をいただきたいと思います。浜野さんは、事業承継後、会社が火事にあいながらも前向きに経営をしてこられるなど、幾多の困難にも立ち向かってこられてきたとお聞きしています。コロナによって大きな打撃を受けた経営者が再び前を向いて経営が出来るターニングポイントとなると信じています。今の時代の経営者にとって必要な姿勢を学び、自社の経営理念、同友会理念を実現するため社員、お客様、地域の明るい未来を描いていきましょう。



浜野 慶一 氏

【久留米支部】久留米支部新春講演会

新時代の組織づくりと社員教育

1/20 金 18:30~

- **萃香園ホテル** 久留米市櫛原町87番地 ☎0942-35-5351
- **平木 洋二 氏** 株式会社 丸信 代表取締役社長

1968年に創業した株式会社丸信は久留米市に本社を置く包装資材の販売および製造会社です。

パッケージでは九州随一、シール印刷では日本屈指の規模を誇ります。創業以来50年以上で、売上が前年を下回ったのは1度だけで、それ以外一貫して増収を続けています。

近年では、Webサイト運用など印刷お客様の販売支援など食品業界向けソリューションの提供や、M&Aを活用し規模拡大を行っているほか、事業所内に保育園を開設するなど従業員の働く環境づくりに力を入れています。

平木洋二氏には、成長し続ける会社・組織づくりのための実践事例や秘訣を余すことなく語って頂きます。



平木 洋二 氏

【北九州地区】新年祝賀会

百年後の原点回帰 商人からコントラクターへ

1/26 木 18:00~22:00

- **小倉リーセントホテル** 北九州市小倉北区大門1丁目1-17 ☎093-581-5673
- **鹿田 和正 氏** 株式会社鹿田産業 代表取締役 福友和支部

8億の売上に対して8億の在庫。父の会社に戻ったときに唖然とした莫大な「財産」。このとき彼は百年前の創業時からの事業の一つであり、福岡県が誇る伝統工芸でもある簾(すだれ)づくりに主軸を置くことに決めた。しかし和室のある家はどんどん減少し、絶滅危惧種の業種の一つ。ただ作っても売れるはずがない。

ではどうすれば売れるのか。それは作ったものをそのまま販売するのではなく、欲しい人が欲しいなりの一品を作って差し上げること。コントラクター。そう考えた彼はターゲットを一つに絞り営業展開を行い、成功を収めるはずだった。しかし新型コロナウイルスという怒涛の波が押し寄せ、そのモデルは飲み込まれてしまった。

しかし彼はあきらめない。いち早くコロナ禍を普通の生活に変えた欧州への市場に目を向ける。さらに簾はこんなものだという固定観念も捨て、新しい市場に乗り出している。簾をあきらめない。どんな時でも解決策を模索する。常に前を向き続ける漢の話を聞こう。



鹿田 和正 氏

24 火 18:00~20:50

博多支部・南支部
1月合同例会

「人を生かす経営」が企業価値を高める
～不離一体を実践して見えたものとは～

- **福岡国際会議場 4階会議室**
福岡市博多区石城町2-1 ☎092-262-4111
- **梅田 益生 氏** 有限会社ウメイチ 代表取締役
岐阜同友会 副代表理事
中同協青年部連絡会 代表

24 火 18:30~21:00

企業連携推進本部

FAST1月例会

- **振興センター**

第184回フォローアップセミナー

1/26 木 18:00~21:00

- **同友会会議室** 福岡市博多区吉塚本町9-15
福岡県中小企業振興センタービル11F ☎092-686-1234

『企業変革支援プログラム Ver.2』が発行されました!



全国の経営指針の実践、社員教育、共同求人などの実践を教訓としてまとめた『企業変革支援プログラムVer.2』が発行されました!『Ver.2』は『企業変革支援プログラムステップ1』と『同ステップ2』を全面改訂して1冊にまとめたものです。同友会理念と会員の経営実践をベースに多くの英知を集めて開発しました。企業を取り巻く情勢が大きく変化する中で、自社をセルフチェックし今取り組むべきことを誰でもわかりやすく見える化。行動に移せるすぐれたツールです。

A4判80ページ、頒価2,000円

お求め、お問合せは、福岡同友会事務局にお願い致します。

2/3 金 18:30~21:00

女性部委員会例会

誰もが活躍するダイバーシティ経営の実践

- **天神ビル11階10号会議室** 福岡市中央区天神2丁目12-1
☎092-737-0873
- **税田 和久 氏** 株式会社グローバル・クリーン 代表取締役社長 宮崎同友会

福岡同友会では創立60周年記念事業として、2023年6月22日～23日に北九州にて、「Welome “CHANGE” 新しい時代の想像 共に生かしあい、育ちあい 進化する未来へ」をテーマに女性経営者全国交流会(女全交)を設営いたします。全国から経営者が集まりますが、開催を成功に導くために、まずは受け入れる側の私たちが女全交を開催する意義やその背景にあるD&Iを学ぶことにしています。今回の女性部例会では、ダイバーシティ経営をされている宮崎同友会の税田氏をお招きし、ダイバーシティ経営をテーマに、多様性を認める経営について学びます。

2/24 金 11:00~17:00

会員交流特別委員会

チャレンジフェスタ 2023 in FUKUOKA

- **JR九州ホール** 博多区博多駅中央街1-1 JR博多シティ 9階
☎092-292-9258

会員同士の仕事を知り合い、ビジネス交流を広げるため、会員交流特別委員会主催でビジネス交流会を開催します。



月刊

同友

1

月号
2023

vol.678



第26回

女性経営者全国交流会
物産展出展者募集

inふくおか

2023.6.22 木 ▶ 23 金

1日目 13:00~20:30

2日目 9:00~12:00

福岡同友会創立60周年記念事業の一環として第26回女性経営者全国交流会in福岡が開催されます。その物産展の出展者を募集いたします。

ご興味のある方は、詳しくは事務局までお問い合わせください。

【会場】

リーガロイヤルホテル小倉

(北九州市小倉北区浅野2丁目14-2)

【出展対象者】

福岡同友会会員

【募集企業数】

現地&ホームページ 15社 ホームページのみ 20社(予定)

【物産展出展料】

現地&ホームページ 8,000円(予定)

ホームページのみ 4,000円(予定)

【販売時間帯】

1日目: 12:00~13:00(分科会開始前)

18:00~18:30(懇親会開始前)

2日目: ~9:00(全体会開始前)

12:00~12:45(全体会終了後)

【お問合せ先】

一般社団法人福岡県中小企業家同友会 事務局(担当:篠原)

(Tel: 092-686-1234/Fax: 092-686-1230 Mail: a_shinohara@fukuoka.doyu.jp)

あなたの記事でこのコーナーを飾りませんか?

みなさんの投稿をお待ちしています。

投稿方法

郵送、メールいずれも可。
表題に「月刊同友 会員からの投稿」とご記載ください。

テーマ

環境問題や、社会貢献、
例会の様子、地域イベントなど、
内容は自由です。

送付先

郵送/下記「月刊同友」編集部まで
メール/ s_asahi@fukuoka.doyu.jp
(福岡同友会事務局 旭まで)

“デザインQR”とは?

月刊同友675号より、表紙・自立型企業づくり・アンケートは、絵柄付きのQRコードを採用しています。
スマートフォン等で読み取る場合は、従来の黒白QRコードと同じアプリを使って読み込むことができます。
※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

一般社団法人 福岡県中小企業家同友会「月刊 同友」編集部

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町9番15号 福岡県中小企業振興センタービル11階
TEL:092-686-1234 FAX:092-686-1230

[北九州地区センター]

〒802-0001 北九州市小倉北区浅野1-2-39
クルーズ浅野ビル 808号
TEL:093-551-3111 FAX:093-551-3344

[県南地区センター]

〒830-0038 久留米市西町1367-1
祥栄ビル2階
TEL:0942-33-3355 FAX:0942-33-3366

[デザインQR]

今月の『月刊同友』はいかがでしたか?

月刊同友では、皆様からのご意見・ご要望を募集しています。
よろしければQRコードからアンケートにお答えください。

約4分で回答できます 回答締切 1月31日(火)

環境を守るため森林認証紙を使用しています。